

Q&A

治療経過中に肝胆道系酵素上昇を認めた大腸炎

【問題】

症例：45歳，男性。

主訴：血便，下痢。

既往歴：特記なし。

生活歴：喫煙なし，機会飲酒。

家族歴：特記なし。

現病歴：2カ月ほど血便，下痢，腹痛が持続するため当科受診。大腸内視鏡検査を施行し，全大腸に炎症を認めた。治療経過中に肝胆道系酵素の上昇を認め，薬剤中止後も改善を認めないため精査目的に入院。海外渡航歴はない。

入院時現症：身長177cm，体重70kg，脈拍82/分，整，血圧122/72mmHg，体温36.7℃。頭頸部，異常所見なし。胸部，異常所見なし。腹部，平坦，軟，圧痛なし。腸音，正常。打診，正常。腫瘤を触知せず。

血液検査所見：WBC 8020/ μ l，Hb 14.0g/dl，Plt

27.5万/ μ l，BUN 12mg/dl，Cr 0.63mg/dl，TP 7.4g/dl，Alb 3.8g/dl，T.Bil 0.9mg/dl，D.Bil 0.2mg/dl，AST 92U/l，ALT 191U/l，LDH 173U/l，ALP 787U/l， γ -GTP 1013U/l，lipase 21U/l，P-amylase 27U/l，CRP 0.89mg/dl，CEA 2.5ng/ml，CA19-9 30.5U/ml，HBs-Ag (-)，HBs-Ab (-)，HBe-Ab (-)，HCV-Ab (-)，抗核抗体 (-)，抗ミトコンドリア抗体 (-)，IgG4 47.8mg/dl。

大腸粘膜生検組織の細菌培養は陰性。

治療前の大腸内視鏡検査をFigure 1に，内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) をFigure 2に示す。

診断は？

解答は (103p) に掲載

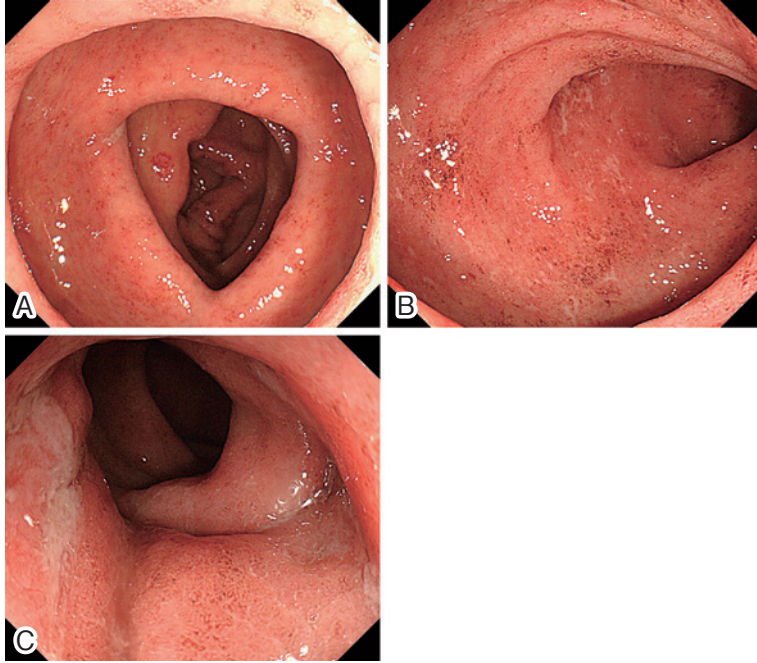


Figure 1. 大腸内視鏡検査画像 A：上行結腸. B：S状結腸. C：直腸.

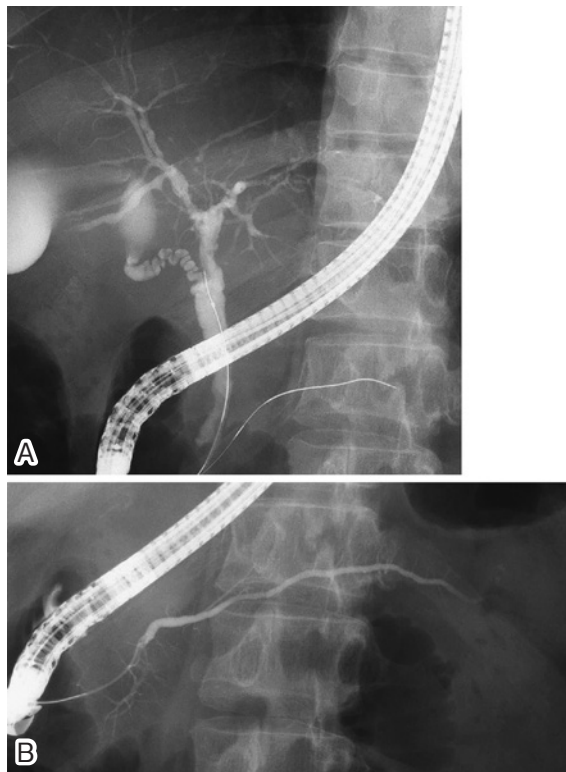


Figure 2. ERCP 画像 A：胆管像. B：膵管像.